

# タイ空港公社(AOTn)

## LCCが牽引し離着陸機数・旅客数ともに増加、地上支援機能や航空交通管制機能の拡充へ

### タイ | 輸送支援サービス | 業績フォロー

BLOOMBERG AOT:TB | REUTERS AOT.BK

- 2/13 発表の 2019/9 期 1Q (10-12 月) は、売上高が前年同期比 5.26% 増の 157.98 億 THB、EBITDA が同 4.30% 増の 94.50 億 THB、EBIT が同 4.36% 増の 80.19 億 THB、純利益が同 2.51% 増の 63.75 億 THB。
- LCC が牽引し、離着陸機数は同 5.88% 増の 22 万 6,901 機、旅客数は同 2.75% 増の 3,559 万人。航空収益、非航空収益ともに伸びた。
- 国際航空運送協会はタイの主要空港がアジア・太平洋地域で最大のハブ空港となる可能性を指摘。同社は地上支援機能や航空交通管制機能の拡充を図っておりジョイントベンチャーの設立など行った。

#### What is the news?

2/13 発表の 2019/9 期 1Q (10-12 月) は、売上高が前年同期比 5.26% 増の 157.98 億 THB、EBITDA が同 4.30% 増の 94.50 億 THB、EBIT が同 4.36% 増の 80.19 億 THB、純利益が同 2.51% 増の 63.75 億 THB。離着陸機数は同 5.88% 増の 22 万 6,901 機、旅客数は同 2.75% 増の 3,559 万人とともに伸びたことが寄与し増収増益。特に LCC の伸びが顕著で、離着陸機数が同 10.35% 増の 11 万 6,837 機、旅客数が同 7.96% 増の 1,787 万人となった。

売上部門別では以下の通り。航空収益は、前年同期比 3.37% 増の 85.25 億 THB。LCC の旅客数、離着陸機数の伸びが寄与した。内訳は、離着陸料・航空機駐機料収入 (LPC) が同 6.50% 増の 19.12 億 THB、搭乗旅客サービス料収入 (PSC) が同 2.29% 増の 63.96 億 THB、ボーディング・ブリッジの利用料などの航空機サービス収入 (ASC) が同 9.29% 増の 2.17 億 THB であった。非航空収益は、同 7.94% 増の 68.71 億 THB。旅客数や空港への来訪者数の増加によりコンセッション収入が伸びたほか、駐車場収入が伸びた。内訳は、オフィス&国有地の賃貸収入 (OPR) が同 3.79% 増の 5.79 億 THB、チェックインカウンターサービス、航空告知サービス、飲料システムサービス、事前旅客処理システム (APPS) などの空港付帯サービス収入 (SVR) が同 4.22% 増の 19.55 億 THB、免税店、売店・飲食店、エアライン・ケータリング、給油所、駐車場、広告、銀行など営業権の付与により生じるコンセッション収入 (CCR) が同 10.31% 増の 43.36 億 THB であった。その他収益は同 1.27% 増の 4.02 億 THB だった。

#### How do we view this?

国際航空運送協会はタイの航空市場は世界で最も成長性の高い市場であり、主要空港はアジア太平洋地域で最大のハブ空港となる可能性を指摘。これを受け、同社は地上支援機能や航空交通管制機能の拡充を図っている。直近では民間企業と共同で、ドンムアン国際空港での駐機サービスおよび GSE (グランドハンドリング作業に使用する器材) の提供を目的にジョイントベンチャーの設立など行った。通期市場予想は、売上高が前期比 8.4% 増の 656.17 億 THB、当期利益が同 9.7% 増の 276.13 億 THB。

#### 業績推移

※参考レート 1THB=3.54円

事業年度	2016/9	2017/9	2018/9	2019/9F	2020/9F
売上高(百万THB)	50,962	54,901	60,537	65,617	71,703
当期利益(百万THB)	19,318	20,683	25,170	27,613	30,102
EPS(THB)	1.35	1.45	1.76	1.93	2.11
PER (倍)	49.63	46.21	38.07	34.72	31.75
BPS(THB)	8.40	9.20	10.07	11.01	12.00
PBR (倍)	7.98	7.28	6.65	6.09	5.58
配当(THB)	0.68	0.86	0.93	1.05	1.14
配当利回り (%)	1.02	1.28	1.39	1.56	1.70

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

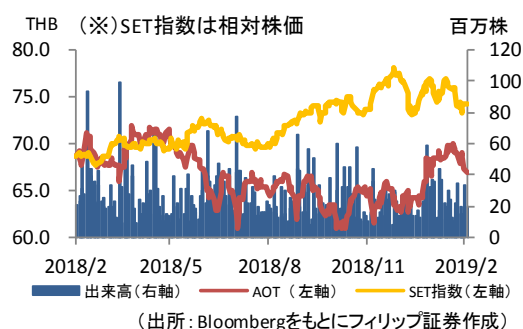
配当予想(THB)	1.05	(予想はBloomberg)
終値(THB)	67.00	2019/2/18

#### 会社概要

2002/9/30に国営企業のタイ空港公社(AAT)が民営化され、公開株式会社となった。タイの空港運営のリーディングカンパニーで、ドンムアン、プーケット、チェンマイ、ハートヤイ、チェンライ、スワンナプームの6つの国際空港を運営している。2006/9/28に営業を開始したスワンナプーム空港は、ドンムアン国際空港に代わるハブ空港として機能している。初期段階でのスワンナプーム空港の処理能力は、年間4,500万人の乗客と300万トンの貨物、1時間あたり76便であった。同社の主な収益は、離着陸料、航空機駐機料、旅客サービス料および航空機サービス料からなる航空収益、コンセッション収入、事務所および不動産賃料、サービス収入からなる非航空収益の2つから構成される。外部事業者への空港施設での営業権付与も行っており、例えば、タイ国際航空公社およびタイ国際空港サービス会社などは空港内施設で小売店、倉庫施設、リムジンバス、駐車サービス、その他を運営しているが、同社にコンセッション料や賃料、サービス料を支払っている。

#### 企業データ (2019/2/19)

ベータ値	0.90
時価総額(百万THB)	957,142
企業価値=EV(百万THB)	900,958
3ヵ月平均売買代金(百万THB)	1,518.4



#### 主要株主 (2019/2)

1.タイ財務省	70.00
2. Stock Exchange of Thailand Co Ltd	4.62
3. ステート・ストリート	1.67

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

#### アナリスト

増淵 透吾  
 togo.masubuchi@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 0707  
 笹木 和弘  
 +81 3 3666 6980  
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>